

9 里山と政策分科会

里山と子ども 里山は創造力をふくらませる「場」

里山に子どもたちの声が響く和
光保育園

会場写真

お母さんがつくった
プレーパーク どんぐりの森

千葉市「子どもたちの森」



9 まとめ:政策は自らつくっていくもの

●現状

- ・都市化で身近な自然・里山が失われて、子どもたちが自然に触れ合う機会が減ってしまった。
- ・社会とかかわらない、実体験の乏しい現代の子どもたち

●結論

- ・思いを実現していくためには、自らが声を出し、場をつくり、人を巻き込み、つながっていく。
- ・政策は私たち自らがつくっていくもの

●課題

- ・社会の仕組みに関わっていくことがなくなっている。自分には関係ないと思っている人たちをどう巻き込んでいくか。



「里山と子ども」という観点から政策について参加者で考えました。三つの事例をまずお話いただきました。

1つ目は周りの里山の中で地域の大人たちをまき込んで子どもたちを育てている自称里山保育園の取り組み。

次に子どもたちを自然の中で、育てたいという強い思いから、自分たちで里山にプレーワークを作ったお母さんたちの取り組み。

最後に、いわゆる都市公園、都市部にある普通の公園ではない、里山を活用した子どもたちのための公園(森)作りを行っている自治会の新たな取り組み。

この三つの事例をもとに意見交換しました。

豊かな自然の中で子どもたちを育てたいという思いは誰もが望むことですが、現状は自然が失われて、子どもたちが実体験できる場がなくなっています。

このような中で政策というものを考えた時に、私たちに何ができるのか、やはり思いを実現させていくためには動き出す勇氣、自分たち自ら声を出して、場をつくったり、人を巻き込んだり、人とつながり、行政とも連携して、自分たち自身で政策作りに取り組んでいかなくてはいけないというまとめになりました。

(内山 真義)

10 里山と観光分科会

里山の四季を活かした観光

- シンポジウム:
日時:6月21日
場所:我孫子市中央学院大学6号館3F (634教室)にて
特別ゲストによる講演:
「里山とそのすばらしさ」出演者:中村俊彦
講演:
「里山の四季を語る」出演者:浅井桑男
グループ討論:
「里山イメージ作成」

●シンポジウム(予定)

- 日時:
6月18日(土)12:00から
会場:「道の駅」ローズマリー公園・丸山町
里山ハイキング
安房谷の里山をハイキングし四季の里山を見学します

- 6月19日(日) 9:00から
前日ハイキングした安房谷の里山を題材に、里山の価値について語ります。またその価値をどう観光に結び付けていくかの可能性について考えます。



会場写真



里やまの春 浅井桑男 画

10 まとめ

●現状

- ・観光に合うよう努力しているもののゴミが多く、癒しにならない場合が多い
- ・里山のイメージは入それぞれあります。

●結論

- ・当事者だけでなく、多くの人手も借りて、幅広い活動をしたい。

●課題

- ・里山を見る側と管理する側の意見を調整しながら今後の里山づくりにあたりたい。

午前中の参加者は20名でした。現状としましては里山と観光について、観光にもあるように、当事者は努力しておりますがゴミは多くてなかなか癒しの場にならないというような例もありました。里山に対するイメージが悪いということになります。

結論としましては当事者だけで協力してもなかなか思うようにならないと。人出と支援を仰ぎながら、幅広い活動をしたいということでございます。

我々としましては、里山を見る側と管理する側の意見の違いもありますので、そつうつなぎ役に徹していきたいと思ひます。

まとめとしまして、観光として里山には目だけで楽しむのではなく、時には目をつぶり五分でも風の音、風のおいを楽しんでみたことがあるとおもひます。

また里山のお土産としましては足元に咲いている花の名前の一種類でも、木の名前の一種類でも覚えて帰ってもらえたらいいと思ひます。

今日の分科会は前夜祭です。本番は6月18日19日と丸山町で行います。皆さんよろしくお願ひします。

(横山 武)

11 里山と水循環分科会

「健全な水循環」～恵み豊かな水を子どもたちへ～

●シンポジウム:

日時:5月21日

場所:中央学院大学6号館3F(635教室)にて

講演 佐倉 保夫氏 (千葉大学理学部地球科学科)

事例発表

- (1)「印旛沼のみなみし行動」 三島 圭史氏(千葉県国土整備部)
 - (2)「名戸ヶ谷湧水と子どもたち」 藤崎 博氏(名戸ヶ谷ビオトープを育てる会)
 - (3)「手繰り川協働事業と絆田での市民活動」 小野 田美千氏(さくら人と自然をつなぐ仲間)
- 意見交換会 コーディネーター 瀬和夫氏 (千葉工業大学生命環境科学科) まとめ



会場写真

●野外体験(予定)

「親子で体験! 船に乗って手繰り川の水調べ・生き物観察」

日時:6月12日(日)10:00~15:00

集合場所:手繰り川の水の前 場所:手繰り川周辺



11 まとめ

- **現状** ・印旛沼流域で県民・行政が水循環の健全化に取り組んでいる
・市民はや谷津田などで汚れた水の入り混じった中で活動をしている。
- **結論** ・地域の肩が水循環をよくするということ何を望み、何を残すか。合意を得ること
- **課題** ・地下水をいかに保つか・・・
雨水の浸透
灌漑域の保全...など
・地表に流れる豊かな水辺作り



始めに千葉大の佐倉先生から里山の水循環というテーマでお話していただきました。

雨が降って地下にしみ込み、湧水として出てくるまでの段階のお話で、地下水の補充源は涵養域に降った雨水で涵養域がとても大切である、また地下水の年齢は様々で一千年を超す水も有るということ、などです

事例発表というかたちで、千葉県の方から印旛沼の周域に「みためし行動」で、湧水復活の為に雨水浸透柵の推進、生活廃水の改善、エコ農業の推進などを実施しているという話、柏市にある名戸ヶ谷ビオトープを作る会は「湧水と子供達」というビオトープを通じて子供たちの活動の話。佐倉市にある手繰り川を、親水の川づくりとして維持管理しているという話。この手繰り川は、佐倉市と千葉県と市民との協働でやっているということでした。

いま県、市、町、村や県民の方が一緒になって流域の水循環を良くしようという動きが始まっています

共通の課題は、地下水をいかにキレイに保つかということで、雨水を汚さずいかに地下へ浸透させていくかということです。その結果、綺麗なせせらぎとして流れる水を望んでいるわけですが、残されたすこしの斜面林を涵養域として利用することを行政をはじめ県民の皆さんが一体となってじっくりと考え取り組んでゆく必要があります。

里山保全というかたちで、いろいろと行動されていますが、子どもたちにも伝えていかなければならないのです、健やかで綺麗な水が流れる川を始めとして、それらを維持するためにバランスの取れた自然環境が残されていくということが大事なのだということをお子供たちと一緒に体験してゆくことが、結果として里やまの水循環を維持してゆくことになるのではないのでしょうか。(荒尾繁志)

12 里山と野生動物分科会

里山の野生動物との共存を考える

●シンポジウム:

日時:5月21日

場所:我孫子市中央学院大学6号館5F(657教室)にて

基調講演 羽山 伸一
(日本獣医畜産大学獣医学部助教授・野生動物学)

パネルディスカッション

・羽山伸一(同上)

・栗原 裕治
(NPO法人千葉まちづくりサポートセンター副代表)

・清水 享
(サージミヤウキ・電気構研社員)

・後藤 肇浩
(帝京科学大理工学部アニマルサイエンス科4年)

・千葉県→市町村の担当者(予定)

・被害農家の方(予定)



会場写真



12 まとめ 野生動物対策は町ぐるみで

- **現状** ・外来種:面積の割りに多い外来生物
・農産物被害:被害額横ばい、無秩序な対策によるサル被害の拡大
- **結論** 地域作りとリンクし、民間をも交えた野生動物被害対策
→ 住民への説明、理解
→ やる気の醸成、戦略計画の樹立
- **課題** ・子ども、女性も含めたさまざまな立場からの <地域の将来> イメージの構築
・専門技術者の配置、自然環境管理機関の創設



私達は、今日の午前中に里山の野生動物との共存を考える、というテーマで分科会を行いました。最初に基調講演として、羽山伸一先生(日本獣医畜産大学獣医学部助教授・野生動物学教室)に50分お話を頂き、その後、パネルディスカッションに移行し、4人の専門家の方々をお招きし活発な議論を行っていただきました。現状としては、千葉県は外来種の問題が浮上しています。アカゲザルやキョン、カミツキガメやアライグマなどの外来動物の生息報告がなされています。また猿、猪、鹿といった大型野生哺乳類による農作物被害が深刻です。ニホンザルの有害駆除数も千葉県は全国で一位という現状にあります。本日の分科会のまとめとしては、「野生動物対策は町ぐるみで」。地域づくりとリンクしながら、住民と情報を共有し、やる気を出させたり、民間を交えた戦略計画をたてていくことの必要性。さらに、女性や子どもも含めた様々な立場や視点からの「地域の将来」といったイメージをきちんと構築し、また専門技術者を配置したり、自然環境管理機関を創設するという課題が挙げられていました。以上です。

(中野真樹子)